令和８年９月定例会

ＡＩ活用推進対策特別委員会会議録

令和８年９月24日

場　所　第３委員会室

令和８年９月 24 日（木曜日）

午前10時０分開会

会議に付した案件

○意見聴取

一般社団法人宮崎県商工会議所連合会

宮崎商工会議所

１．ＡＩ活用の事例

２．ＡＩ活用の支援内容

宮崎県商工会連合会

１．商工会連合会のＡＩに関する取組

２．ＤＸ支援員から見た事業者のＡＩ活用の取組

○協議事項

１．県外調査について

２．次回委員会について

３．その他

出席委員（９人）

委員長	山内 いっとく
副委員長	今村 光雄
委員	安田 厚生
委員	内田 理佐
委員	山口 俊樹
委員	齊藤 了介
委員	河野 通博
委員	永山 敏郎
委員	脇谷 のりこ

欠席委員（１人）

委員	福田 新一

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

一般社団法人宮崎県商工会議所連合会

専務理事	中原 光晴

宮崎商工会議所

中小企業相談所長	黒木 竜一

宮崎県商工会連合会

専務理事	酒匂 重久
事務局次長兼企画指導課長	山名 智行
企業支援課長	市谷 法明
ＤＸ推進員	長置 庄平

事務局職員出席者

政策調査課主査	住吉 美保
政策調査課主任主事	戸髙 悠一朗

○山内委員長　それでは、ただいまからＡＩ活用推進対策特別委員会を開会いたします。

まず、本日の委員会の日程についてでありますが、お手元に配付の日程（案）を御覧ください。

まず、意見聴取として、一般社団法人宮崎県商工会議所連合会様及び宮崎県商工会連合会様に出席いただきます。

なお、商工会議所連合会様からは、単会を代表して、宮崎商工会議所様にも出席いただきます。

その後、協議事項として、県外調査などについて御協議いただきたいと存じます。このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山内委員長　それでは、そのように決定いたします。

では、説明者等の入室のため暫時休憩いたします。

午前10時０分休憩

午前10時１分再開

○山内委員長　それでは、委員会を再開いたします。

本日は、一般社団法人宮崎県商工会議所連合会様、宮崎商工会議所様、宮崎県商工会連合会様の皆様に御出席いただきました。大変お忙しい中、本委員会にお越しいただき誠にありがとうございます。

それでは、まず私から一言御挨拶申し上げます。

私はこの特別委員会の委員長で、都城市選出の山内いっとくと申します。

当委員会では、本県の課題を解決するため、ＡＩ活用推進対策に関する所要の調査活動を行っております。宮崎県もＡＩの活用において、頑張って引っ張っていきたいなと考えておりますので、ぜひ御協力のほどよろしくお願いしたいと存じます。

次に、座って、委員を紹介させていただきます。

まず、最初に私の隣が、都城市選出の今村光雄副委員長です。

続きまして、東臼杵郡選出の安田厚生委員です。

延岡市選出の内田理佐委員です。

宮崎市選出の山口俊樹委員です。

宮崎市選出の齊藤了介委員です。

串間市選出の河野通博委員です。

都城市選出の永山敏郎委員です。

宮崎市選出の脇谷のりこ委員です。

なお、北諸県郡選出の福田新一委員が当委員会の委員となっておりますが、本日は欠席いたしております。

以上で委員の紹介を終わります。

それでは、まず、一般社団法人宮崎県商工会議所連合会様と宮崎商工会議所様に御説明をお願いしたいと存じます。よろしくお願いします。

○中原専務理事　おはようございます。一般社団法人宮崎県商工会議所連合会専務理事の中原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

隣が、宮崎商工会議所の中小企業相談所長の黒木でございます。どうぞ本日はよろしくお願いします。

本日は、当連合会のＡＩに関する取組ということで御説明させていただく機会をいただきました。感謝を申し上げたいと思います。

また、日頃から、県内商工会議所の活動につきまして、御理解、御協力を賜っておりますこと、この場をお借りして重ねてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

それでは、早速、資料の説明に入らせていただきます。座って御説明いたします。

一般社団法人宮崎県商工会議所連合会の資料でございます。１枚おめくりいただきまして、資料の１でございます。当連合会の概要に少し触れさせていただきます。

会員は、県内９つの商工会議所ということになっております。会議所ごとの会員数につきましては、中ほどに記載のとおりでございます。

会員企業数は、今年４月１日現在で、合計で１万2,627者となっております。

事業の目的、それと事業の概要につきましては、資料に記載のとおりでございます。説明は省略させていただきます。後ほど御覧いただければと思います。

おめくりいただきまして、資料の２を御覧ください。

ここからは、宮崎商工会議所の管内事業者のＡＩ活用についてという項目でございます。２行目でございますけれども、①のＡＩ活用の事例ということで、４件ほど上げさせていただいております。１つずつ触れてまいります。

まず、１の美容業でございますけれども、ＳＮＳによる効果的な情報発信をするため、生成ＡＩツールを活用した高品質な投稿文書、画像の作成を負担なく行うということで、業務の効率化を図っているところでございます。

２番目のイベント用具等のレンタル会社につきましては、ＡＩチャットボットを導入いたしまして、お客様からの問合せへの対応を自動化いたしております。設問、回答の作成、更新作業時間が大幅に削減されたところでございます。24時間365日即時の対応が可能となっておるということでございまして、対応の遅れによる機会損失の防止につながっているということでございます。

３番目でございます。塗料の卸売業でございます。社内業務におきます属人化を解消いたしまして、業務知識のマニュアル化と共有を目的といたしております。自社システムとＡＩを連携いたしました業務記録あるいは分析システム等を構築しまして、社員ごとにばらばらになっておりました業務手順の差が少しずつ可視化され、平準化されるようになってきたということでございます。

一番下の４番でございます。防犯カメラの事業者さんにつきましては、エリア内の人物と車両だけを検知できるＡＩ小型監視カメラのシステムを独自に開発いたしまして、全国の建設現場あるいはキャンプ場などの防犯対策等に活用されているということでございます。

資料３に参ります。

ここは、②のＡＩ活用の支援内容でございます。宮崎商工会議所で行っております支援の概要でございます。

上のほうからでございますが、まず１番のセミナーの実施につきましては、業務の効率化・省力化やマーケティング強化、採用活動での活用等を内容として実施をいたしております。

２番です。専門家アドバイスの実施でございますけれども、ＡＩを活用した業務の効率化や情報管理に関することなど、ＩＴコーディネーター等の専門家の方を個別の事業所に派遣いたしまして、アドバイスを行っていただいております。

３番です。補助金・金融支援の実施につきましては、システムを導入する際に必要な資金の調達ですとか、補助金の申請についての事業計画作成など、経営指導員が伴走支援を行っているところでございます。

４番でございます。会員専用アプリの提供ということでございます。これは、宮崎商工会議所独自のＡＩ活用の事例として御紹介をさせていただきます。今年度中に開始予定といたしまして、現在準備中であります旬な情報をいち早くお届け、また、セミナー等の申込みやアンケート回答がスマホでできるようにいたします。さらにＡＩチャットで24時間、365日、いつでも補助金や経営に関します一次的な相談や問合せの対応が可能となるというところでございます。これによりまして、会員の皆さんへのサービス、伴走支援の充実、あるいは時間外や休日の職員の業務負担の軽減にもつながるものと考えているところでございます。

次のページをお開きいただきまして、ここから２ページ、参考までに、昨年宮崎会議所で開催いたしました生成ＡＩ活用セミナーと、今年

10月以降に開催いたしますセミナーの広報用チラシを添付させていただきました。参考にしていただければよろしいかと思います。

おめくりいただきまして、資料の４に参ります。

宮崎商工会議所では、随時年間通して様々なアンケートをいたしておるところでございます。この中で今年５月から６月にかけまして、会員事業者を対象に経営上の課題ですとか、宮崎商工会議所への事業の要望等に関する調査アンケートを行ったところでございます。その結果を公表した資料の中から、一部を抜粋して今回提出させていただきました。

この中で、まず生成ＡＩ活用についての会員の意識を尋ねた問いがございますので、そこの部分を御説明させていただきます。６ページ、７ページ、８ページの説明は省略させていただきます。

９ページを御覧ください。

クエスチョン２の「貴社の課題」ということで、経営上の課題としてどういったところが挙げられますかという問いでございます。御覧いただきますと、デジタルＡＩ活用自体の回答は、下から２段目ということで0.6％という低い数字でございます。何か役に立ちそうだという興味・関心はお持ちになっていらっしゃるものの、設問の選択肢の設定もあるんですけれども――自社のどの業務にどう適用すれば、売上拡大や人材の確保育成、業務の効率化、販路の開拓など、具体的な導入イメージが、今の段階ではまだ描けていない状況であるということが推察されるところでございます。

ちなみに、数字が多くなっている回答の幾つか、例えば一番上の売上げ拡大、３番目の新規顧客の獲得、あるいは、中ほどになりますけれども、業務効率、３つ下の販路開拓、２つ下の商品・サービス開発などにつきましては、これはデジタルＡＩを活用すればさらに伸びるといった項目でございます。質問の仕方のいかんにもよる回答にはなっておるんですけれども、こういったところを課題としては捉えているところでございます。

おめくりいただきまして、10ページを御覧ください。

ただいま御説明しました経営課題に対しまして、商工会議所にどういったサービスを求めるかという問いでございます。求めるサービスという項目でございますが、ここになりますと、具体的に生成ＡＩ活用に関するサービス、支援ということになろうかと思いますが、４番目に上がってきていると。数字自体は７％台でございますけれども。そもそも商工経営支援団体につきましては、補助金の手続ですとか、人材の確保・育成・定着といったところ、それと資金繰りですね、こういったところが上位には上がってまいりますけれども、そうした中に生成ＡＩが具体的に挙がってきているという状況でございます。

下のほうを御覧いただきますと、ＳＮＳ・ＷＥＢマーケティング、あるいはＩＴ導入等も項目には上がってきております。広くＤＸについての意欲といいますか、そういった点が捉えられるところでございます。

ここから先、資料にはございませんけれども、私ども商工会議所といたしましては、ＡＩの導入・運営に当たりまして、ＩＴリテラシーですとか、プロンプト力と言われております、いわゆる入力する文章の作成力というんでしょうか、文章力、こういったところが不足しているという課題を認識しております。ＡＩに適切な指示

が出せずに、欲しい回答が得られないといった状況もございます。個人情報ですとか、社外秘のデータの流出あるいは著作権のトラブルなど、様々な面で多くの課題があるものと感じているところでございます。

宮崎商工会議所では、アンケートの結果、ニーズが認められた生成ＡＩにつきまして、販促文の自動作成や新商品のアイデア創出といった売上げの拡大、それと契約書のチェックですとか議事録作成といった業務の効率化。この２点を軸に、経営指導員や専門家が各事業所さんの現場に赴きまして、実際に使えるまでサポートする、いわゆる伴走支援、実践型のワークショップ等に取り組んでいるところでございます。

一方、中小企業が直面しております、ただいま御説明申し上げてまいりました課題に対する質の高い支援への期待に応えるため、商工会議所の職員、経営指導員のスキル自体の向上ということにも必要性を感じております。勉強会ですとか研修会、内部の研修会等を実施しているところでございます。さらには、県で実施していただいております各種の補助金、助成制度等の活用も十分に制度を紹介しながら、広く生成ＡＩ、ＤＸの広まりを目指しているところでございます。

商工会議所連合会あるいは宮崎商工会議所の取組につきましての説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○山内委員長　御説明ありがとうございました。質疑につきましては、宮崎県商工会連合会様の説明の後、併せて行います。

続きまして、宮崎県商工会連合会様に御説明をお願いしたく存じます。よろしくお願いいたします。

○酒匂専務理事　おはようございます。宮崎県商工会連合会専務理事の酒匂でございます。本日はこのような機会を設けていただきまして、誠にありがとうございます。

また、山内委員長をはじめ委員の皆様方には、日頃から商工会に対しまして、一方ならぬ御理解、御支援を賜っておりますこと、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げる次第でございます。

それでは、座って説明させていただきます。

まず、出席者を御紹介させていただきます。

私の隣から、事務局次長兼企画指導課長の山名智行でございます。

企業支援課長の市谷法明でございます。

ＤＸ推進員の長置庄平でございます。

どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、宮崎県商工会連合会のＡＩ活用に関する取組について御説明をさせていただきます。

資料は、Ａ４横の紙を用意してございます。お開きいただいて２ページを御覧ください。

私どもといたしましても、深刻化する労働人口減少の中で、生成ＡＩを活用し生産性の向上を図っていくことは、事業者の生き残りと、さらなる発展のために欠かせないものと認識しております。そのため商工会連合会では、県内の中小・小規模事業者へのＡＩ活用支援と商工会自身の業務へのＡＩ活用の両面から、ここに記載の大きく４つの柱で取組を進めております。

１つ目が、セミナーの開催でございます。事業者の皆様に単にＡＩの知識を学んでいただくのではなく、実際の事業活動の中でどう活用するか、テーマとしてシリーズで開催をしております。

２つ目が、専門家派遣による個別支援でござ

います。事業者からの要請に応じ、ＡＩに詳しいコンサルタントや中小企業診断士等を派遣し、企業ごとの具体的な課題に応じて支援しております。

３つ目が、ＤＸ支援員の配置でございます。商工会連合会にＤＸ支援に特化した専門家を配置し、県内の小規模事業者、中小企業者からの相談に対して個別指導を行っております。

４つ目が、商工会への支援でございます。県内に35ございます商工会の業務効率化と経営支援力のアップを図るため、商工会連合会がＡＩアプリを提供するとともに、職員の資質向上を図るため、各種研修会を実施しております。

３ページを御覧ください。

１つ目のセミナー開催の状況でございますが、令和７年度はチャットＧＰＴを中心としたセミナーを10回開催し、延べ1,271名の方に受講いただいております。令和８年度はチャットＧＰＴだけに限定せず、複数の生成ＡＩを比較しながら、自社に合ったＡＩを選ぶことや、調査、コスト削減、ＳＮＳ、資料作成など、より実務に近いテーマへと内容を広げてきております。

令和８年度は全８回を予定しておりまして、資料には４回終了し、延べ468名と記載しておりますが、９月16日までに６回終了いたしまして、延べ673名に受講していただいているところでございます。

お開きいただきまして４ページが、令和７年度のチャットＧＰＴセミナーのカリキュラムになります。説明は省略させていただきます。

５ページを御覧ください。

セミナーの効果について、令和７年度実施したアンケートでは、学んだ内容を業務や日常に生かせそうと回答した方が87.4％と、今後、生成ＡＩを使いたい、または既に使っているが、合わせて99.6％となっております。

お開きいただいて６ページ、７ページに、受講者の感想などを記載しておりますけれども、受講者からはセミナーに満足されまして、今後、単なる入門編ではなく、自分の業種、業務に合わせた活用方法ですとか、ＡＩを実際の業務に落とし込むための実践的な内容を求める声が多く寄せられたところでございます。

８ページから11ページが、令和８年度の生成ＡＩ活用セミナーのカリキュラム、受講者のアンケート結果でございます。令和７年度と同様、セミナーは大変好評でございまして、より個別実践的な内容のセミナー等を希望されております。詳細はこちらも割愛をさせていただきます。

12ページをお開きください。

ここからが、令和７年度の専門家派遣でございます。37事業者に対しまして40回の支援を行い、そのうち生成ＡＩに関する相談が14回でございました。

相談内容といたしましては、例えば生成ＡＩを使ったインスタグラムの記事やハッシュタグの作成、チャットＧＰＴ、ジェミニなどのツール比較、ジェミニノートブックを使った自社データの活用などがございます。

13ページを御覧ください。

令和８年度になりますと、ＡＩに関する相談はさらに増えておりまして、４月から７月までの実績が、12事業者に対する16回の支援、そのうちＡＩ、生成ＡＩに関する相談が９回となっております。

具体的には、スマートフォンの音声入力とＡＩを組み合わせた商談記録のデジタル化や、ＡＩを活用した積算・工事管理の効率化など、業務そのものにＡＩを組み込む相談が出てきております。

14ページを御覧ください。

こちらは、材木販売事業者オークションサイトでの出品販売の提携業務の自動化の可能性を検証した支援事例を掲載しているところでございます。

15ページを御覧ください。

こちらがＤＸ支援員による支援でございまして、令和７年度に114事業者、118回の指導を行いました。このうちＡＩ、生成ＡＩに関する支援が75回と最も多くおります。

内容としましては、チャットＧＰＴやジェミニを使った報告書・補助金申請書の素案作成、ＳＮＳ投稿文の作成、ＡＩツールの比較や使い分けなどでございます。

16ページを御覧ください。

令和８年度でございますが、４月から７月まででは、62事業者に対しまして74回の指導を行い、ＡＩ、生成ＡＩに関するものが60回となっております。チャットＧＰＴですとかジェミニの業務活用、プロンプト作成、商談記録や文章作成の自動化など、実際の仕事の中で使う段階での支援を行っております。

私からの説明は以上でございますが、今後とも事業者の要望等をしっかり受け止めながら、支援に努めてまいりたいと考えております。

引き続き、本会のＤＸ推進員の長置様より、県内事業者のＡＩ活用の取組について説明をさせていただきます。よろしくお願いします。

○長置ＤＸ推進員　ＤＸ支援員を務めさせていただいております長置庄平と申します。よろしくお願いいたします。

私からは、実際に県内事業者様の支援をする中で見えてきた現状と課題、こちらについて御説明をさせていただきます。こちらは、17ページ目から御説明をさせていただきます。

活動段階をゼロ段階から４段階まで分けさせていただいております。このゼロ段階、ＡＩの導入などが未着手の状態です。聞いたことはあるが触ったことがない。チャットＧＰＴを聞いたことはあるけれども、インストールしてない企業様が比較的多いかなと思います。

第１段階、個人利用。こちらは、一部の社員が無料版を個人的に利用している。これは県内で私がいろいろ支援したり、セミナーをしている中で出てきた、最も多い層ですね。第２段階から第３段階、第４段階。こちらに下にいくにつれて、事業者様の支援の件数、ＡＩ活用している件数というのは、徐々に少なくなっていくイメージになります。私はこのゼロ段階、あと１段階ですね、こちらの事業者様を２段階以降に引上げをするという活動をさせていただいております。

実際企業様の中では、無料版を許可なく使用しているといった職員さんも多くいらっしゃいますので、実際無料版でどこまで使っていいのかという範囲をお伝えしたり、よくセミナーの中で質問があるのが、無料版と有料版の違いというところを明確に知りたいですとか、あとは、チャットＧＰＴ、ジェミニ、クロードとありますけれども、どのツールがどういう使い方をできるのか。強みとかそういったところを知りたいという形で、今支援をさせていただいております。

次、18ページ目です。

こちらは、ＡＩ活用推進が止まる５つの壁というところで書かせていただきました。１番目がきっかけ、２番目が人材・スキル、３番目がコスト・効果、４番目がセキュリティ、５番目が定着です。

この１番目、きっかけは、やはり何から始め

ればよいか分からないという事業者様は、宮崎県内でも多くいらっしゃるかと思っております。私がセミナーをするとき、あと企業様の研修をする前には、必ず事業者様に、今御自身で一番時間がかかっている業務は何ですか、課題は何ですかということを聞かせていただきます。実際そこの社員さんとか職員さんで時間がかかっているもの、これをどうＡＩで効率化できるかというところが、事業者様の中でも一番早くＡＩ活用ができるポイントですので、そういったところを御説明させていただいております。

あとは、２番目の人材・スキル、社内に教えられる人がいない。こちらは、よく事業者様の中でもＩＴスキルを持った人材がいないといった形で、ここで止まっている事業者様もいらっしゃるんですけれども、ＩＴが詳しいとＡＩが詳しい、というのは少し違いますので、そこの御説明もさせていただいてます。

３番目は、コストと効果です。有料版を導入する場合は、月額数千円かかります。でも、中小企業以上の事業者様だと、そこの職員数分を有料版にするには決裁が下りないため、止まっているケースは多々見受けられます。

４番目は、セキュリティです。やはりここが一番事業者様の中で質問が多かったんですけれども、ＡＩに、どのような質問を入れていいか分からないと。ですので、私はセミナーの初めに、チャットＧＰＴなど、ＡＩに情報が読み込まれない設定の仕方を皆様にお伝えしています。実際に、スマートフォンのチャットＧＰＴを開いていただいて、ここの設定をオフにしてくださいという形で指導をしています。

５番目の定着です。研修やセミナーを受けたけれども、続かなかった。よくあるのが、首都圏の研修会社やセミナーを受けられて、社内の研修を依頼した場合、宮崎県内の課題感が、首都圏の企業様だと分からないので、研修内容にミスマッチが起きていると思っております。

こちら19ページ目です。

実際、建設業、製造業の事業者様への支援事例という形で、私のほうでも研修というのをさせていただいておりますので、この中で見られるのが、管理職向けのＡＩ研修というのは、宮崎県内の中でも推奨していく必要があると思っております。

理由といたしましては、管理職の方は、実際に部下への指導はできるけれども、ＡＩへの指示の出し方が分からない、触り方が分からないという方が多くいらっしゃいます。そういった方々向けに、ＡＩを御自身の新入社員の部下だと思って接してくださいというセミナーをさせていただいております。ここでイメージをつかんでいただいた上で、ＡＩへの質問の仕方を御説明させていただいております。

こちらは、支援事例２番目、小売サービスや流通サービス業です。実際に私のほうにも、中小企業以上の職員さん、かなり大きめの事業者さんからも相談があるんですけれども、宮崎の中でも大企業と呼ばれる事業者さんでも、中小企業と呼ばれる事業者さんでも、ＡＩ活用はあまり進んでいないというところが実情かなと思っております。

実際、宮崎のＩＴ企業でもやっぱりセキュリティ面を気にされていて、有料版を職員に配布できていない事業者さんがかなり多くいらっしゃいます。ですので、私が逆にＩＴ企業様の中で、チャットＧＰＴの基礎的な研修をしたり、どういった使い方ができるのかという事例をお伝えさせていただくケースが多くございます。

最後、20ページ目です。

実際に私が、宮崎県商工会連合会様の事業で宮崎県内を回らせていただいた中で、事業者が求める支援施策を５つ書かせていただいております。

１番目、業種別、あとは現場密着型の実践講座です。行政関係で実施されているセミナーなども、私もいろいろ中身は見させていただくんですけれども、やはりＡＩツールの一般的な使い方講座が多いなと思っております。実際に、事業者様にもお伺いするんですけれども、自社の業務にどう使うかがやはりイメージができないといった内容も多くあります。そこで、私は今、一般社団法人宮崎ＡＩギルウドの理事をさせていただいておりまして、代表理事がカレー倶楽部ルウのルウ王子になるんですけれども、一緒に業種特化型のセミナーや支援というのは必ず必要だねといった形で、社団法人を設立させていただきました。やはり介護向けのセミナーや伴走支援をはじめ、いろいろな業種の方々向けの施策というのは必要かと思っております。

２番目、導入後の伴走支援です。単発のセミナー、研修で終わらせずに、月１回程度の相談ですとか改善の支援ですとか、そういったところが必要になってきております。

３番目、小規模事業者向けの導入支援制度です。小規模事業者の方が中小企業の企業さんと戦うとなったときに、ＡＩ活用というのは必須になってくると思っております。ですので、小規模事業者の方でも、少人数でＡＩ活用することでコストを抑え、そこで売上げをアップしてというところはできるかと思っておりますので、こういった導入支援制度のほうを書かせていただいております。

４番目、支援人材の育成です。私が、宮崎県商工会連合会様のＤＸ相談員と活動させていただいているんですけれども、各商工会の指導員の方へのＡＩ活用や、あと商工会議所様での職員の勉強会などで、今指導させていただいております。やはり地域の商工会さんが事業者様に向けて、ＡＩ伴走のアドバイザーとなることが必要かと思っております。

５番目、事業者間の学び合いの場所のつくり方です。私もいろいろなセミナーを見させていただいているんですけれども、セミナーが終わった後の定期的な交流が少ないので、事業者同士が事例を共有し合ったり、最新の情報を勉強したりする場所というのがやはり必要かと思っております。

この最新の情報については、私が首都圏のＡＩ研修会社にも属しておりまして、そこで講師業もさせていただいております。そこから毎日のように最新情報などをチャットで確認ができますので、その最新情報を事業者の方に御説明をしたり、宮崎でのセミナーの中でお話をさせていただいたりですとか、宮崎でもＡＩを推進できる場所をつくる活動をさせていただいております。

○山内委員長　御説明ありがとうございました。

それでは、御説明いただいた内容について御意見、質疑がございましたら御発言をお願いいたします。

○脇谷委員　今、長置さんの御説明、すごくよく分かったんですけれども、各商工会にそういったＡＩを活用して伴走支援をされる方はいらっしゃるんですか。

○長置ＤＸ推進員　今、商工会さんの中の指導員の方が事業者様の相談を受けまして、私がちょっと日程を合わせてお伺いして、ＡＩの活用や今の業務の棚卸しなどをさせていただいてお

ります。また、指導員の方にもＡＩの活用などを一緒にレクチャーをさせていただいて、活用ができるように努めております。

○脇谷委員　やはり各商工会にそういったベテランの方がいらっしゃらないといけないと思います。中小企業、どちらかというと小規模事業者の方への伴走支援が必要だと思うんですよね。だから、そういった各商工会のスタッフを育てていただくといいなということを思ってます。

○長置ＤＸ推進員　そうですね。商工会の指導員の方からも、電話やメールでこういった使い方はできないのか、どう解決すればいいのかなど、常に連絡が来ますので、私が回答させていただくという形で支援をさせていただいております。

○酒匂専務理事　県内35商工会がございますけれども、商工会の指導員なり支援員は、総合的にいろいろなことの相談に応じないといけません。どうしても専門的なところまでなかなか踏み込めないところがありますので、そのために我々としては専門家を置いております。まずはワンストップで事業所の相談事を聞いて、自分で回答できるものはしっかりと指導員が回答しますし、もっと高度な支援を求められるときには、こういった専門家を頼るという形ですみ分けをして、事業所の支援に努めているところでございます。

○黒木中小企業相談所長　宮崎商工会議所ですけれども、商工会議所に関しましても、経営指導員のスキル向上がすごく大事だと思っております。経営指導員も日頃の業務の中で生成ＡＩの活用について、事業者の方と一緒になって相談に対応しているところでございます。

また、内部のスキルアップ研修という形で長置先生に来ていただきまして、勉強会などをさせてもらっているところでございます。

○山口委員　セミナーというアプローチでいくと、より多くの人に取りあえず触れてみてもらって、そこからだんだん浸透させていく形になるかと思います。お二つの団体は、基本的にはそのようなアプローチでのＡＩ活用、浸透を目指してらっしゃるというイメージでしょうか。宮崎におけるＡＩ浸透のアプローチの方法として、簡単でもいいから、多くの人に触れていただいて、それを持ち帰っていただいて、取りあえず触ってみようよ、という普及を進めていくという方法を取っているという印象を受けたんですけれども、どういう戦略で広げていこうとされているのか教えていただければと思います。

○酒匂専務理事　昨年度チャットＧＰＴを使ったセミナーや、今年はそれ以外の様々なＡＩをどういうふうに使っていくかというセミナーを、シリーズでさせていただきました。

例えば資料の４ページ目に、昨年度のチャットＧＰＴセミナーを開催しましたが、おっしゃるとおり、まずターゲットをどこにするかというのがあろうかと思います。先ほどアンケートで説明しましたとおり、既に使っている方や使ってみたいという方が多いものですから、入門編もやったりもしましたし、もっと踏み込んで使う方法ですとか、アンケートで御要望等も聞きながらやっております。まずは間口を広げる、あるいはもっと深みにというような段階ごとに、それぞれターゲットを絞ってやっていきたいと思っているところです。

○中原専務理事　商工会議所のほうでございますけれども、幅広く多くの人にセミナーを受けていただくというのは、実際問題として難しいという状況もございます。

ちなみに、令和７年度の私どもの資料の

４ページ、生成ＡＩ活用セミナーにつきましては、３回シリーズで回を追うごとに深めていくものなんですけれども、受講者は延べ30社の35名ということで、ある意味コアな社員さんが受講されているというところでございます。

先ほど長置先生の御説明にもありましたように、これからはセミナーの対象の階層というのを、しっかりと区別といいますか、差をつけていかないといけないのかなというふうには思います。管理職、これは経営者に限らず、例えば管理部長さんですとか、業務部長さんですとか、そういった方にまず触れていただく、セミナーに入っていただくと、トップダウンで社内への実装が進むという現実があろうかと思います。あるいは、ＡＩがあまりにも新しい技術、新しい知識なものですから、若い職員に行ってこいということで送り出されてセミナーを受講するといった実態もあろうかというふうに思います。

これは、商工会議所のセミナー、商工会さんもですけれども、支援団体のセミナーに限らず、例えば職業訓練の団体さんが実施されます様々な専門的な訓練などでも、見られる特徴でございます。戦略と言えるのかどうか分かりませんけれども、社内のどういう段階のどういう階層の方に、どういう内容のセミナーをまず一発目に打つのかと。そういったところをしっかりと整理しながら、具体的にセミナーの計画を組んでいかないといけないのかなといったところで考えているところでございます。

○山口委員　ここからは一意見として聞いていただければと思います。そのアプローチの方法ももちろんありだなと感じるところであるんですが、我々がこれまで視察をさせていただいてきたＡＩなどをかなり活用されてる企業さんでは、かなり詳しい特化型の社員さんが１人ないし２人ぐらいいらっしゃって、その方が一気に水平展開していくといいますか、力強く進めていくという事例が非常に多かったように感じます。ですので、各企業さんにおいても、１人でもいいからスペシャリストのような人がいるかどうかだけで、恐らくかなり差がついているような現実があるんだろうなと思っています。ふわっと触れる人が多くなっても、恐らくなかなか広がっていかないというところが――これだけＡＩが世の中に出てくると、僕らですらふだんから触っていますので、それまで触らずにセミナーに来て初めて触るという方々が水平展開をしていくのは、かなり厳しいのかなという気もしています。アプローチの方法の一案として、各企業にプロフェッショナルをつくっていくというような在り方も、事例研究的に行ってもいいのかなということを感じたところでございました。これはあくまで意見ですので、一つ参考としていただければと思います。

○永山委員　それぞれＩＴコーディネーターや、ＤＸ支援員による、セミナーや伴走支援という形で、支援をされているという状況だと思います。実際にＡＩ導入に前向きな企業さん方がセミナーなどに参加されると思うんですけれども、企業規模的にはどんな感じなのかなというのをお伺いしてよろしいですか。従業員の多い企業なのか、例えば小売などの、それこそ従業員が三、四人とかそういったところからも、セミナー参加や伴走支援のお願いがあるのか、その辺の規模感が分かれば教えてください。

○黒木中小企業相談所長　従業員の規模感についてですが、宮崎商工会議所の資料２を御覧いただければと思います。こちらに、ＡＩ活用の事例の事業所を４社入れております。

まず、一番上の１番目の美容業。こちらは小

規模事業所さんで、従業員が５名以下の事業所さんになっております。小さい企業ながら、販促や営業活動をしっかりとやりながら情報発信をしていこうということで、ＡＩを活用しておるところでございます。

２番目のイベント用具のレンタル事業さん。こちらは従業員20名以上の中小企業になっております。週末やイベントが多い時期にはいろいろな問合せ等がかなりありますので、ＡＩチャットボットを使って自動で回答ができるような仕組みをつくっております。

３番目の塗料卸売業。こちらも従業員が20名以上の中小企業という形になっております。職人さんがたくさんいる中で、一つ一つ仕事の業務を平準化していこうという取組をされているところでございます。

そして、４番目の防犯カメラの事業者さん。こちらも従業員が20名以上の中小企業になっております。ＡＩ監視カメラを独自に開発されて全国に展開していこうという事業所でございまして、これからますます大きくなるような事業所でございます。

ですので、規模的にはどっちかというと中小企業が多く、あと情報発信等での活用では小規模事業者さんが使っているというような感じかと思っております。

また、飲食業などは、どちらかといったら、小規模企業の方からＡＩを活用して、お客様の管理などをしていくという形が見受けられる状況でございます。

○酒匂専務理事　商工会連合会でございますけれども、県内商工会の会員事業者は約8,000事業者ございまして、その半分、50％が従業員がいないという規模でございます。５人以下が35％で、従業員なしと合わせると５人以下は全体で85％程度になります。逆に51人以上が２％、約百五、六十社というぐらいになるものですから、基本的に我々が対応させていただいているのは小規模事業者になろうかと思います。山口委員から先ほどあったプロフェッショナルを育てるというのも、事業者の中では厳しいというところが実態としてあろうと思っております。

○永山委員　やはりある程度の規模があるところは、専門の詳しい人を育てやすいのかなと思うんですけれども、今後はＤＸ支援員さんやＩＴコーディネーターさんの負担が大分大きくなるのかなというふうに思うんですが、現状はどのような感じでしょうか。１人ではなかなか厳しいなど、その辺の状況が分かれば教えてください。

○長置ＤＸ推進員　ＡＩの専門家やＤＸ支援員は、宮崎県内でもどんどん人材を増やしていったほうがいいと思っております。実際に私も今動いているんですけれども、スケジュール的には、９月、10月も空いてない日がないぐらい、相談件数も多く、土日も宮崎県内の組合さんや協議会さんからセミナーをしてほしいと依頼があります。ＡＩについて触れたい、学びたいという県内の事業者様は、昨年と比べると今年は全然違うなと思っております。私が一般社団法人をつくった理由としても、ＡＩを実際の業務で活用してるメンバーを集めたいということがあり、社団法人を設立したという経緯もございます。今は、ＡＩを広めていきたい方々にも私がいろいろ指導したりといった活動をさせていただいております。

○永山委員　企業の導入支援と併せて、人材育成というところも連携していければなと思います。

○内田委員　これまでの質問と重なってしまう

部分があると思うんですが、商工会議所連合会の９ページ、10ページのところ、アンケート調査の結果がすごく気になっています。まず、課題に感じていることの９ページで、売上拡大が25.9%に対して、デジタルＡＩ活用が0.6%となっています。企業側からすると、この２つがうまく結びついていないのかなと思います。先ほどからの説明にもありましたけれども、ＡＩ活用によって販路拡大や顧客分析、情報発信などができ、売上げの拡大につながるんだよという理解が進むのがまだこれからなのかなと、課題であるということだと思います。この結果において、皆さんがどのように分析されているのか、教えていただいていいですか。

○中原専務理事　自社の経営の中や活動の中で、デジタルＡＩというのがまだ具体的にイメージできていない。売上げを増やしたい、お客さんを増やしたい、コストを下げたいといった課題はいろいろ抱えてはいるけれども、そこの解決策の中にＡＩがあることにまだ着眼がされていない段階なのかなと考えております。

セミナーの話に戻ってしまいますけれども、そういった機会を通じて、自社のどういう部分にＡＩが活用できるのか、ＡＩがあれば自社の課題がどういうふうに解決されていくのかという道筋を、これから会員企業さんにしっかり広めていくことが大事なのかなと考えております。

日々、経営指導員がいろんな相談をお受けする中でも、気づきとして、こういうツールがあるんですといった助言やアドバイスがしっかりとできるように、我々のスキルアップもやっていかないといけないと考えております。

○酒匂専務理事　先ほどアンケートを御紹介しましたが、ＡＩを導入して売上げが上がったかどうかについては、生の数字のデータを持ち合わせませんので、どこまで成果が出ているかというのはなかなか見えないところです。

ただ、昨年度セミナーを実施しますと1,200名ぐらいの参加がありましたし、今年度も600名超えるということで、かなり関心が高く、評判もすごくよくて、教わったことをすぐ実践に生かそうということで、多分いろいろなところで活用が進んでいるんではないかなと思っております。また、先ほど長置さんからありましたけれども、研修を単発で終わらせずに、その後伴走でしっかりと活用していくという段階を踏んでいくことで、少しでも売上げにつながっていけばいいですし、生産性の向上にもつなげていければなと思っているところでございます。

○内田委員　人手不足などの課題に対しても、人が少なくても売上げを伸ばしたり維持できたりできるツールであるというところが、もっと結びついてくればいいのかなと思うのが一つです。

あと10ページの求めるサービスのところで、補助金や助成金が23.48%、その４つ下の生成ＡＩ活用が7.39%と、ＡＩよりも資金面を求められており、ここも結びついてくるといいのかなと思っています。実際に補助事業の中にＡＩ導入に対する支援金や具体的な事業が入っていることが、分かるといいなと思ったんですけれども、今現在、補助金や助成金の中に、ＡＩ導入の支援金はどれぐらいあって、どんな事業がありますか。

○中原専務理事　予算額、金額までは手元にございませんけれども、県で実施していただいているものの中に、県内事業者の稼ぐ力強化支援補助金というのがございます。これはＡＩに限った補助金でございませんが、様々いろんな事業者さんの取組に対して、稼ぐ力を上げるため

の補助金ということで、県のほうで措置をしていただいております。

また、国のほうでは、デジタル化ＡＩ導入補助金というものがございます。以前はＩＴ導入補助金として始まった事業でございます。

それと、今年度、宮崎市のほうで成長応援設備投資サポート補助金といった新しい補助金制度も始めていただいております。これは、県の稼ぐ力強化支援補助金に近い内容でございますけれども、こうしたものがＡＩやＤＸなど、かなり幅広い範囲にはなりますが対象となる補助金ということで、今現在、私どももいろいろな相談事業の中で御紹介をしているところでございます。

○内田委員　今、宮崎市の紹介があったんですけれども、その他の市町村の情報などはありませんか。都城市も視察させていただいて、積極的にいろいろされているような感じでした。皆さんと市町村との連携のようなものがほかにあればと思います。特に宮崎市が一番頑張って進めていただいているということでしょうか。

○山名事務局次長　商工会地区では、今のところＡＩに特化した補助金は特別には設けておりません。ただ、先ほどのセミナーなどいろいろな御要望がございますので、商工会連合会としましても、先ほどの宮崎市の事例等を通じて、各市町村等に対して積極的に支援をお願いしたいという要望等は行っていきたいと思っております。

また、先ほど内田委員から御質問のありました、売上げとＤＸをどう組み合わせるのかというお話ですが、14ページに、商工会連合会の専門家派遣事業の事例をちょっと１件つけさせていただいております。

小規模事業者が多い商工会地区では、従業員が例えば１人といった状況の中で、生産性を上げないとなかなか営業にも回れないということもございます。ここに書いてあるＡＩオークションサイトの材木屋さんのお話なんですけれども、ネットで材木の端切れを販売しているところでございまして、こういった販路を一つ広げることによって、これまで１人でかかっていた作業時間を半分に減らすというＡＩ活用事例も出ております。今後はこういった小さな取組も広げていきながら、生産性向上等も支援をしていきたいと思っております。

○山内委員長　ＡＩに関しまして、トップダウンで取り組まれている企業さんや専門家がいる企業さんが先進的に進めていて、全国で事例発表している企業さんも、宮崎県内に多いなと感じたところでした。

管理職等への研修という話がありましたが、連合会の皆様は管理職だと思いますので、自身のＡＩを使っている事例を教えていただけたらありがたいなと思ったところです。進める側としてどんなことをされてるのかをちょっと教えていただけたらありがたいです。

○酒匂専務理事　商工会の中でも率先して使うようにということで、例えば私も挨拶文とかを作ってもらったり、文章のチェックや修正をさせるなどもやってますし、機微のあることについて相談したときに、本当に的確に論理的に説明してくれるんで大変ありがたく思ってまして、少しでも追いついて使っていこうと思っているところでございます。

○中原専務理事　一つあるのは、出張するときの細かな行程づくりです。出張のたびに、スケジュールづくりをすると、時刻表を開いたりなど相当手間がかかりますが、ＡＩに、何月何日にどこからどこまで電車と車を使って行ったら

どうなりますかという丁寧にお尋ねすると、丁寧に答えてくれます。積み重なる時間を考えますと、なるほどな、こういうことかと気づきました。そのレベルで私は活用させていただいております。もちろん挨拶文や語句の検索についても、以前から少しずつですけれども活用しているところでございます。

○黒木中小企業相談所長　私は中小企業相談所の所長をしております。今まだ現役の経営指導員でございます。その中で事業所の方の相談の中で補助金の相談とかあるんですけれども、補助金の実施要領などをジェミニノートブックに全部データを入れておくと、確実な内容が出てきますので、相談で受けた問合せをそこで質問して、正確な答えをお出しするような形で使っております。会議等の議事録についても、議事録作成のＡＩを使って、効率的に報告書が作れるような形で今使っております。あとは、個人的にもいろいろな検索をしたり、いろいろ聞いたりしてるところでございます。

○山名事務局次長　35の商工会がございまして、そこをどうやって標準化していくのかというところで、職員が、生成ＡＩなどを活用して自社開発といいますか、商工会にいろいろなアプリを提供して標準化をしていきたいというところで、内製化ができる部分を進めております。あと一部、経営支援のいろいろなツール、先ほど補助金のお話があったと思うんですが、そういった部分についても、業者が開発したアプリを県内全商工会に導入させていただいおります。個人のレベルが上がるにはどうしても時間がかかりますので、そういったツールを活用させていただいて、相談に来られた事業者への対応レベルを全体的にアップするための取組を、連合会としてさせていただいているところです。

○市谷企業支援課長　今回、商工会連合会から出させていただいた資料、これは２年間の専門家派遣の実績やアンケートなんですけれども、ＡＩを活用して、系統立てて区分させたり、特徴的な声を拾い上げたりしております。以前のように自分でエクセルから集計していたらと思うと、非常に時間がかかっていたと思います。ＡＩのおかげで、かなり効率的に資料の作成等もできたと思っております。

○山内委員長　補助金申請なり、アンケート分析なりでいろいろ使われているということで理解しました。

ほかによろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ほかに質疑がないようですので、これで終わらせていただきたいと思います。

最後に、今村副委員長から一言お礼を申し上げます。

○今村副委員長　本日はありがとうございました。一般社団法人宮崎県商工会議所連合会の中原様、宮崎商工会議所の黒木様、宮崎県商工会連合会の酒匂様、山名様、市谷様、長置様、本日は大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございました。

本当にＡＩが、全ての業種でこれから必須になってくる業務になるのではないかなと考えております。ただ、浸透するまでに本当にまだまだ時間がかかるのかなと。教える側の人手不足や受け手側の理解不足など、今日話を聞いていて、そのような課題があるのかなと感じたところでございます。

県としましても、調査研究、また対策等をこれからもしっかりと練っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日お聞きしましたことは、今後の委員会活

動や、また県への提言に十分反映させていきたいと思っております。皆様のますますの御健勝と御活躍を御祈念申し上げまして、大変簡単ではございますが、御礼の言葉とさせていただきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

○山内委員長　それでは、暫時休憩いたします。

午前11時８分休憩

午前11時９分再開

○山内委員長　それでは、委員会を再開いたします。

協議事項（１）の県外調査についてであります。

10月20日火曜日から22日木曜日までの期間、県外調査を実施予定です。

７月の委員会で御一任いただきました日程及び調査先につきまして、お手元に配付の資料１、日程案のとおり調整いたしましたので御覧ください。

暫時休憩いたします。

午前11時10分休憩

午前11時16分再開

○山内委員長　それでは、委員会を再開いたします。

県外調査の日程、調査先等につきましては、資料１でお示しした案のとおり、準備を進めさせていただくことを御了承いただきたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山内委員長　それでは、そのような形で準備を進めさせていただきます。

続いて、協議事項（２）の次回委員会についてであります。

次回委員会は、11月５日木曜日の開催を予定しております。

次回の内容といたしましては、広島県を調査先として予定して、オンライン形式で現地調査をしたいと考えております。

広島県は、「ＡＩで未来を切り開く」ひろしま宣言を掲げ、先進的な取組を進めております。その取組についてお話を伺う方向で、現在調整を進めているところでございます。

次回委員会について、御意見や御要望はありませんか。

暫時休憩いたします。

午前11時17分休憩

午前11時17分再開

○山内委員長　委員会を再開いたします。

それでは、お示しした案で調整させていただきます。

なお、諸般の事情により、変更が出る場合がありますので、今後の調整につきましては、正副委員長に御一任いただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山内委員長　最後に、協議事項（３）のその他です。委員の皆様から何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山内委員長　次回の委員会は、11月閉会中の11月５日木曜日午前10時から予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で本日の委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前11時18分閉会

署　名

ＡＩ活用推進対策特別委員会委員長　　山内　いっとく